

「肥の豊」の未結果期と結果1年目の根の生育

「肥の豊」の未結果期と結果1年目の発根最盛期には違いがあり、未結果期は7月下旬または8月下旬、結果1年目は6月上旬である。また、結果期にはいると着果負担が大きいほど地上部および地下部生育は劣り、細根量は減少しやすい。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 藤田賢輔)

研究のねらい

「肥の豊」は平成16年から現場への普及・導入が図られ、平成18年から初結果となる。これまで「不知火」の根の特性について報告されているが「肥の豊」では明らかにされていない。そこで栽培管理の基礎資料を得るため未結果期および結果1年目の根の特性を明らかにする。

研究の成果

1. 未結果期の発根は、7月から増加し地温12℃を下回る11月下旬頃にはほとんど発根しない(データ略、地面下30cm)。また、最盛期は樹毎に異なり、7月下旬または8月下旬である(図1)。
2. 結果1年目の発根最盛期は6月上旬であり、着果程度による差はない。また6月までの発根割合は、結果樹で6割、未結果樹で7割程度である(図2)。
3. 葉果比別の地上部および地下部重の生育は葉果比が高いほどよい。また地下部の細根量は葉果比が高いほど多い(表1)。

普及上の留意点

1. 根域が制限された根箱による調査結果であるため、露地栽培の結果とは異なる。

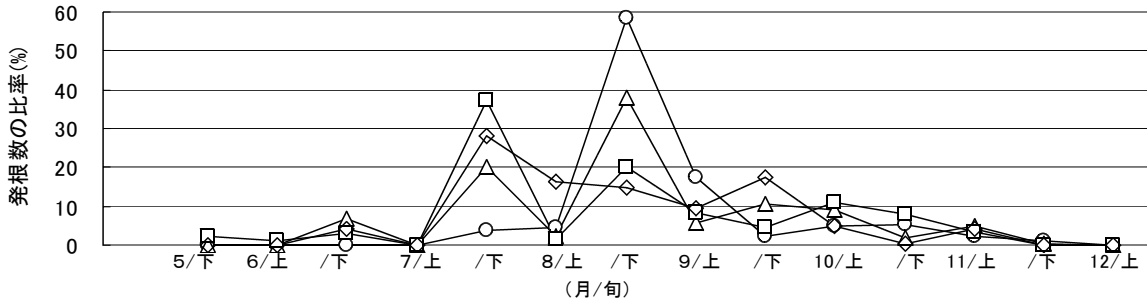


図1 「肥の豊」未結果期の発根状況の推移(2002)

注1) 根箱における2.5年生4樹の発根状況
注2) 発芽日は3月16日頃

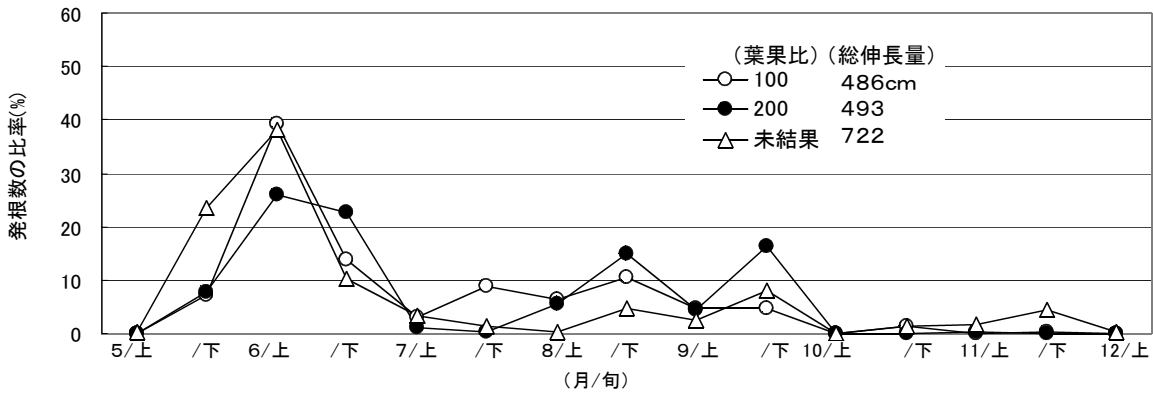


図2 「肥の豊」結果樹の葉果比別発根状況の推移(2003)

注1) 根箱における3.5年生樹の発根状況
注2) 発芽日は3月20日、満開日は5月5日頃
注3) 葉果比設定は7月30日に実施

表1 「肥の豊」結果樹の葉果比別地上部および地下部の乾物重(g)と構成割合(%) (2003)

葉果比	地上部		地下部					地上部計	地下部計
	主幹	枝葉	特大根	大根	中根	小根	細根		
100	180.1 (14.5)	1047.5 (85.5)	35.0 (13.6)	32.5 (12.6)	53.4 (20.7)	44.6 (17.3)	92.0 (35.7)	1485.1	257.4
200	196.4 (11.9)	1458.6 (88.1)	38.3 (12.6)	57.8 (19.0)	48.0 (15.8)	37.0 (12.2)	123.1 (40.5)	1959.2	304.2
未結果	193.2 (11.1)	1540.6 (88.9)	86.4 (15.7)	34.4 (6.3)	88.1 (16.0)	73.4 (13.4)	267.7 (48.7)	2283.8	550.0

注1) 根の区分(直径別)

特大根 ≥ 20mm、大根 10~20mm未満、中根 5~10mm未満、小根 2~5mm未満、細根 < 2mm

なお、根幹は主幹に含めた

注2) 根箱に植栽した3.5年生樹を2004年4月に解体

注3) カッコ内数値は構成割合